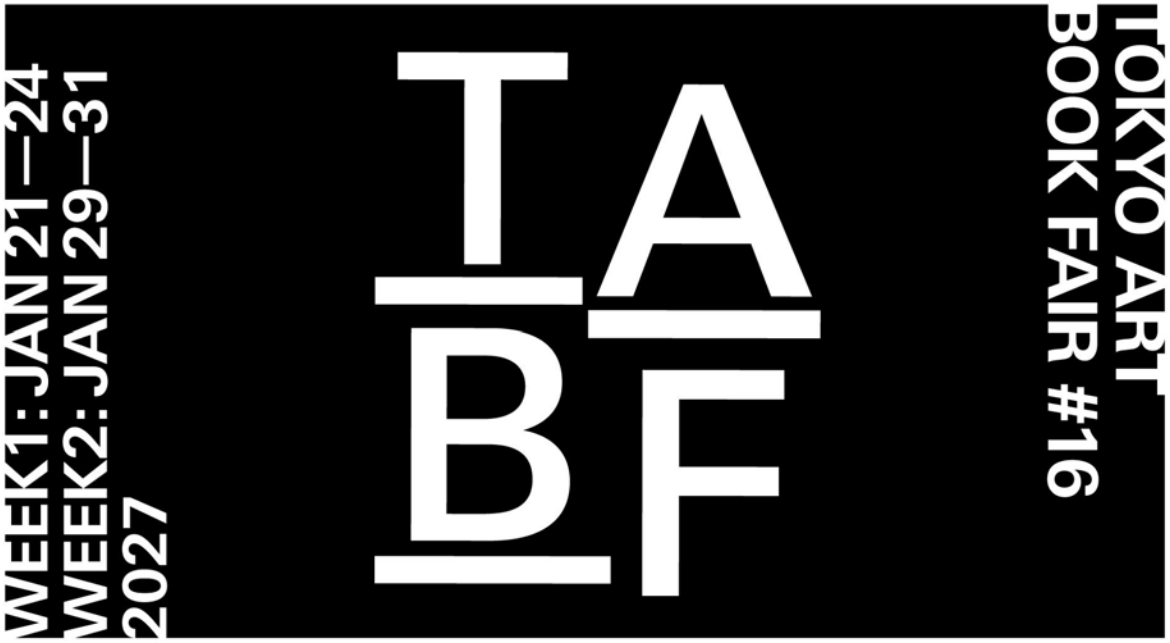
Press Release

TOKYO ART BOOK FAIR



今年で16回目を迎えるTOKYO ART BOOK FAIRは、前回に続き、2週末にわたり開催いたします。週末ごとに出展者を入れ替え、約40の国と地域から、各週約270組、合計約550組の出版社、アーティスト、ギャラリー、書店などが集まります。アート出版の国際的なコミュニティに広く開かれた場として、交流と対話が生まれるプラットフォームを目指します。

ひとつの国や地域に焦点を当て、その出版文化を紹介する企画「ゲストカントリー」の第10回では、カナダを特集します。1974年にアーティストグループGeneral Ideaによって設立され、アーティストによる出版や作品の流通を支えてきたArt Metropoleの50年以上にわたる活動を、アーティストブックやポスター、エフェメラなどの多彩な資料を通して紹介します。さらに、アートコレクティブGeneral Ideaのメンバーであり、Art Metropoleの共同設立者、そして2006年にNY Art Book Fairを創設したAA Bronsonによる特別講演も開催します。また、モントリオールを拠点とするカナダ建築センター（CCA）の展覧会では、建築をめぐる研究や社会への問いを広く共有する手段として、出版が果たしてきた役割に光を当てます。

そのほか、アジア各地のアートブックフェアを巡りながら、本とグラフィックを通じて交流を重ねるリレープロジェクト「BETWEEN Spread and Gathering」のプレビュー展や、シンガポールのAtelier HOKOによる、来場者が自由に一冊のZINEを制作する参加型プロジェクト「YOUR BOOK」を展開します。

また、Sigma、New Balance、Museum of Imaginary Narrative Arts、THREEなどによるスペシャルブースが登場します。新たな才能の発掘と支援を目的とする「TABF Talent Award」や、ソウルのUnlimited Editionとの出展者交流プログラム「Unlimited Mate」、カナダの絵本の展示やワークショップなどを楽しめる「PLAYGROUND」に加え、トークショー、サイン会など、多彩なプログラムを展開します。さらに、飲食や休憩を楽しめる「SUNKEN LOUNGE」「OUTDOOR LOUNGE」、地域と連携する企画「NEIGHBOURS」など、会場内外に交流の場が広がります。

文化や言語、世代を超えて、さまざまな人々が本を通じて出会い、つながる7日間。本をつくり、届け、手渡すことから生まれる交流や対話を通じて、アート出版の新たな可能性を探ります。

会期：【Week 1】1月21日（木）12:00-19:00 最終入場時間：18:30
1月22日（金）- 1月24日（日）11:00-18:00 最終入場時間：17:30
【Week 2】1月29日（金）12:00-19:00 最終入場時間：18:30
1月30日（土）- 1月31日（日）11:00-18:00 最終入場時間：17:30
会場：東京都現代美術館 企画展示室B2F、エントランスホールほか
（〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1）
入場料：オンラインチケット（日時指定）一般 1,100円（税込）*小学生以下無料
1月4日（月）12:00よりオンラインチケット販売開始予定。

オンラインチケット購入：
https://www.ticketpay.jp/calendar.php?content_code=The16theditionofTOKYOARTBOOKFAIR
※チケットの発行手数料に別途165円（税込）がかかります。
※当日券は1,300円で、若干数ご用意する予定です。当日券の販売は16時に終了します。

〈展示エリア〉
主催：一般社団法人東京アートブックフェア、東京都現代美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

〈 公募ブースエリア〉
主催：一般社団法人東京アートブックフェア
特別協力：東京都現代美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

特別協賛：株式会社シグマ
協賛：株式会社ニューバランスジャパン、東急株式会社、THREE、BEAMS CULTUART、株式会社八紘美術、平和紙業株式会社、芝パークホテル、チケットペイ、
後援：カナダ大使館
協力：L PACK.、株式会社ノルディスクジャパン、NORDISK CAMP SUPPLY STORE、ROOT、オーディオテクニカ、株式会社オイルマウント、有限会社宮田印刷、株式会社子どもの文化普及協会、Woset、株式会社トーキョーバイク、DOCU

EXHIBITORS
約40の国と地域から、各週約270組、合計約550組の出版社、アーティスト、ギャラリー、書店などが集まります。
TOKYO ART BOOK FAIRのメイン会場となる東京都現代美術館の1FとB2Fには、それぞれ特色の異なる4つの出展エリアを設けています。1Fには、国内外のアーティストやデザイナー、出版社などが幅広く集まる「ENTRANCE AREA」と、印刷・加工会社などが出展する「PRINTER AREA」。B2Fには、国際的に出版活動を展開する出版社やギャラリーが集う「EXHIBITION SPACE AREA」と、新進のブックメーカーを中心に、個性豊かなZINEやアートブックが並ぶ「ZINE'S MATE AREA」が広がります。さらに、屋外の「OUTDOOR LOUNGE」には移動型書店も集まり、会場のさまざまな場所で多彩な出版物に出会うことができます。

GUEST COUNTRY vol.10 Canada

TOKYO ART BOOK FAIRでは、2015年からひとつの国や地域に焦点を当て、その出版文化を紹介する「Guest Country」という企画を行っています。第10回となる今回は、カナダを特集します。
モントリオール、トロント、バンクーバーなど、広大な国土のさまざまな地域から、各週10組、合計20組の出版社やアーティストなどが参加します。英語やフランス語をはじめ、異なる言語や文化的背景のもとで育まれてきた、多様な出版活動を紹介します。

1. Exhibition



Card catalogue at Art Metropole, 1974. Photo by Jorge Zontal. © General Idea.

Art Metropole by Artists since 1974

1970年代、カナダではある変化が起きていました。地理的な隔たりや、従来のギャラリーや美術館に根づく保守的な価値観を前に、アーティストたちは自らの手で作品を制作し、発表する新たな方法を模索していました。既存の美術制度に対抗するように、カナダ各地でアーティストが主体となって運営する拠点が誕生し、実験や協働、自律した運営を重視する活動が広がっていきます。当初は各地で独立して活動していたこれらの拠点も、ニュースレターなどの印刷物を郵便で送り合うことで、次第につながりを深めていきました。こうして、遠く離れた地域のアーティスト同士がアイデアを交わすようになったのです。

この運動が勢いを増すなか、カナダのアーティストグループGeneral Idea（AA Bronson、Felix Partz、Jorge Zontal）は、トロントにArt Metropoleを設立しました。マルチプルや映像、そしてとりわけアーティストブックなど、広く流通可能なメディアで制作する作家の支援を目的としたアーティスト・ラン・センターです。現在も、世界で最も長く活動を続けるアーティスト運営の書店として、精

力的に出版に取り組むとともに、展覧会やトーク、ディスカッションなどのイベントを開催し、トロントの店舗から世界へと活動の輪を広げています。

本展「Art Metropole: By Artists Since 1974」では、Art Metropoleが50年以上にわたって制作してきたアーティストブック、マルチプル、ポスター、映像、カタログ、雑誌、サウンド作品、ZINE、ショッピングバッグ、エフェメラなどを紹介します。展示作品には、Art Metropoleの多彩な出版活動を支えてきた100人以上のアーティストによる作品が含まれています。そのひとつひとつが、作家の視点を中心に据えてきたArt Metropoleの一貫した姿勢を物語っています。アーティストブックから限定版プリント、名刺やレターヘッドに至るまで、Art Metropoleを形づくるあらゆるものが、常にアーティストの手によって生み出されてきたのです。



What is the environment? What comes after? Samples of CCA's thematic research, The Museum Is Not Enough (CCA/Sternberg Press, 2019), p. 173. Photograph by Elise Windsor

What Books Make Public: Reading the CCA—建築を社会にひらく、**CCA**の出版活動

一冊の本は、社会に何をひらくことができるでしょうか？ モントリオールにあるカナダ建築センター（CCA）は、研究組織とミュージアムが一体となった国際的な文化機関です。CCAが出版に力を注ぐのは、単に研究成果や展覧会の内容を伝えるためだけではありません。それは一冊の本が、ここで生まれたアイデアを共有し、建築をめぐる対話を広げ、さまざまな社会に問いを投げかけていく手段となるからです。

1979年にフィリス・ランバートが設立したCCAは、「建築は社会全体のテーマである」という考えのもと、コレクションを基盤とした展覧会、研究、出版、公開イベントなどを通して、建築が私たちの生活をどのように形づくり、また変えていくことができるのかを問い続けてきました。本展では、CCAが出版を通じてどのような問いを発信してきたのかに焦点を当て、出版の力に迫ります。

CCAの本には、これまで建築の問いとして十分に扱われてこなかったテーマに光を当てるものもあれば、アーカイブから複数の解釈を引き出し、歴史の新たな読み解き方を提案するものもあります。会場では、建築という視点から現代社会を捉えたCCAの本を精選して展示し、その多彩な活動から生まれた問いが、本という媒体を通してどのように発信されてきたのか、さまざまなアプローチを紹介します。

本展は、こうした本をひとまとまりに提示することにより、ミュージアムとしての革新に注力してきたCCAが「出版」に託す役割を浮き彫りにします。本展は問いかけます──ミュージアムは本を通して、社会に何をひらくことができるだろうか？ そうした本を通して、私たちはどんな対話を始められるだろうか？

2. Special Lecture
AA Bronson: From General Idea to the Art Book Fair
日時：2027年1月27日（水）16:30-18:00
会場：カナダ大使館（東京都港区赤坂7丁目3-38）
入場無料　事前予約制

1972年、AA BronsonはFelix Partz、Jorge Zontalとともにアーティスト・コレクティブGeneral Ideaとして『FILE Megazine』を創刊。既存の美術制度やメディアとは異なる方法で、アーティスト同士が作品や情報を共有し、つながるためのネットワークを築いてきました。1974年には、アーティストによる出版物や作品の流通を支えるArt Metropoleを共同設立。その後、アーティストブックの普及と流通を支えるニューヨークの非営利団体Printed Matterのディレクターを務め、2006年にはNY Art Book Fairを立ち上げました。
アーティストとしての活動と並行して、出版を表現やコミュニケーションの手段として捉え、その可能性を広げ続けてきたAA Bronson。その実践は、今日、世界各地で展開されるインディペンデント・パブリッシングやアートブックフェアの文化にも大きな影響を与えています。

本トークでは、General Ideaおよび個人としての芸術活動から、『FILE』、Art Metropole、Printed Matter、NY Art Book Fairに至るまで、AA Bronson自身の歩みを振り返ります。出版を通じて人々をつなぎ、アーティストが自ら発表と流通の場をつくることの意味、そして変化を続けるアートブックの文化とその未来について、お話を伺います。

AA Bronson
1946年、カナダ・バンクーバー生まれ。ベルリンを拠点に活動するアーティスト。1969年、Felix Partz、Jorge Zontalとともにアーティスト・コレクティブGeneral Ideaを結成。1972年に『FILE Megazine』を創刊し、1974年にはArt Metropoleを共同設立するなど、芸術表現や出版、流通の新たな可能性を切り拓いてきた。1994年に二人のメンバーを亡くした後は、個人での制作活動を展開しながら、さまざまな共同プロジェクトにも取り組む。2004年から2010年までニューヨークのPrinted Matterでディレクターを務め、NY Art Book Fairを創設。2013年にはLA Art Book Fairも立ち上げた。

※本イベントのみ、会場が異なりますのでご注意ください。

3. Exhibitors from Canada
TOKYO ART BOOK FAIRの会場にて、各週10組、合計20組の出展者がカナダから出展します。

4. Talk Event
TOKYO ART BOOK FAIRの会場にて、カナダのアート出版をさまざまな視点から紹介するトークイベントを開催します。Art Metropoleの活動や歴史を振り返るトークをはじめ、カナダのリソグラフ印刷を取り巻くシーンに焦点を当てたトークなどを通じて、カナダの多様な出版文化とその背景を探ります。

EXHIBITIONS



Preview: BETWEEN Spread and Gathering
A Relay Project Across Asian Art Book Fairs

「BETWEEN Spread and Gathering」は、アジア各地のアートブックフェアを巡りながら、出版をめぐる実践や人々の交流を記録していくリレープロジェクトです。

各地のデザイナーやブックフェア主催者を中心としたチームが、アジアのブックデザインを切り口に自身の本棚から20冊の本を選び、次の土地へと手渡していきます。選書は「ベスト・オブ」を決めるためのものではなく、その時点での選者の本棚や関心を反映した個人的な視点から行います。受け取った本は現地のデザイナーによって読み解かれ、ポスターへと翻訳されます。さらに新たな選書が加わり、本とグラフィックは異なる視点や解釈を重ねながら、次の土地へと旅を続けます。

今回のTOKYO ART BOOK FAIRでは、プロジェクトの中間発表となるプレビュー展を開催します。最初の東京からシンガポール、韓国、マレーシアへとリレーを重ねてきた4都市の選書チーム

による計80冊の本と、シンガポール、韓国、マレーシアのデザイナーがそれぞれ制作したポスターを展示します。

本を選び、読み解き、翻訳し、手渡す。その過程で生まれる対話や友情、偶然の出会いもまた、このプロジェクトを形づくる大切な要素です。リレーはこの先もアジア各地を巡り、次回のTOKYO ART BOOK FAIRで再び東京へと戻り、記録集の刊行とともにその成果を発表する予定です。本展では、その旅の途中にある「BETWEEN」の現在地をご紹介します。



From Singapore Art Book Fair, 2026

YOUR BOOK
歌う人がいる。踊る人がいる。絵を描く人がいる。そして、ZINEをつくる人がいる。

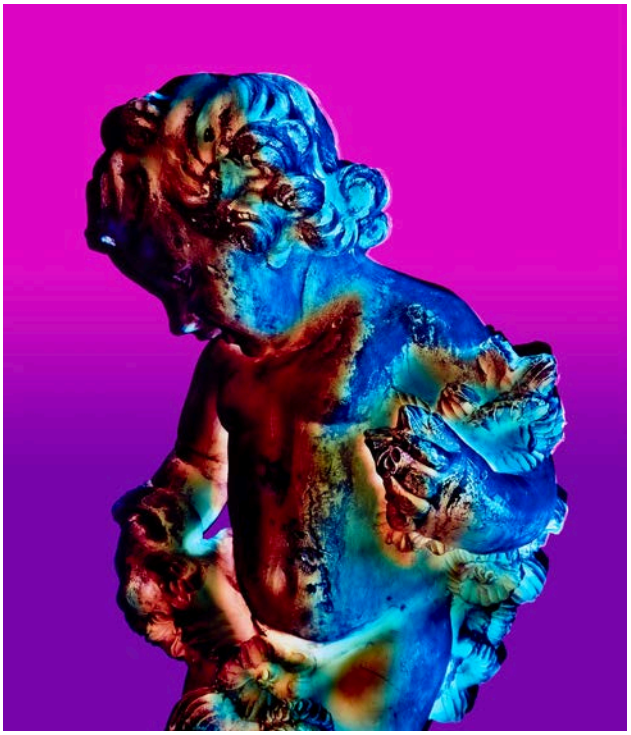
数枚の紙を折り、綴じるだけで、一冊の本ができあがります。作家でもアーティストでもなくていい。特別な技術も必要ありません。ただ紙と時間があれば、誰でも本をつくることができます。

シンガポールを拠点に活動するAtelier HOKOが、2026年のSingapore Art Book Fairで始めた「YOUR BOOK」は、来場者に白紙の冊子と文房具を渡し、自由に本をつくってもらうプロジェクトです。テーマもルールもなく、何を描くかは一人ひとりに委ねられます。生まれたZINEは、ユーモラスだったり、不可解だったり、未完成だったり、ときには驚くほど率直だったり。それらは、つくり手の思考や感情だけでなく、その場所、その瞬間の空気を映し出す、思いがけない記録となりました。

TOKYO ART BOOK FAIRでは、シンガポールで生まれたZINEを紹介するとともに、来場者も自由に本をつくり、完成した作品を会場に展示します。東京で生まれたZINEもシンガポールの作品とともにアーカイブされ、今後、別の都市やアートブックフェアへと旅を続けるかもしれません。

人は白紙の本に何を描くのでしょうか。場所が変われば、何が変わり、何が変わらないのでしょうか。答えはまだ誰も知りません。すべては、一冊の白紙の本から始まります。

SPECIAL BOOTH



Cherub, 2026 Trevor Key and Peter Saville Digitally remastered with Mark Boyle at Epilogue Imaging Ltd, 2026

Original photograph © The Estate of Trevor Key 1988

Image from New Order 'Technique' 1989 Courtesy of New Order

SIGMA FOUNDATION

Sigmaは昨年に引き続きTOKYO ART BOOK FAIRに協賛・出展し、SIGMA FOUNDATION刊行の写真集を展示・販売します。設立から1年半、ソルベ・スンズボー『Hanataba』、ジュリア・ヘッタ『Songen』、そして最新刊のトレヴァー・キー『Trevor Key』と、着実に写真集出版を重ねるSIGMA FOUNDATIONと、その活動を通じて写真芸術への主体的参加を試みるSigmaの現在をご紹介します。

SIGMA FOUNDATION（一般財団法人 シグマ財団）は、Sigma代表の山木和人により、写真芸術の支援と振興を目的として設立されました。財団設立初年度は、世界的な注目を集める写真家、ソルベ・スンズボー（Sølve Sundsbø）、ジュリア・ヘッタ（Julia Hetta）の2冊の写真集を製作しました。『Trevor Key』は財団の3冊目となる写真集であり、文化的にも極めて重要な意味を持つ、豊かな写真のレガシーを祝福するために制作されました。

Sigmaは、カメラ、レンズ、アクセサリーの製造販売を行う日本の光学機器メーカーです。「The Art of engineering, Engineering for Art.（芸術の域まで技術を高め、技術を芸術に尽くす）」という哲学のもと、自らの技術を芸術の域まで高めることで、表現する人々の情熱に応え続けています。



TOKYO DESIGN STUDIO NEW BALANCE / NOT FAR

ニューバランス東京デザインスタジオがプロデュースしているフリーマガジン『NOT FAR』は、スタジオチームがクリエイションを行うに際し、共感や歓喜を受けた素晴らしいモノやコトを、第三者の視点を通じて編集したコンテンツで、これまで #12 までリリースしています。TOKYO ART BOOK FAIR では、2026年12月にリリースする最新号 #13 を無料配布いたします。
（無くなり次第終了となります。）

Museum of Imaginary Narrative Arts

MINA

Museum of Imaginary Narrative Arts

東急株式会社は、アーティストユニットL PACK.と協働し、2026年4月に渋谷3丁目にて、Museum of Imaginary Narrative Arts[MINA/ミーナ]をオープンしました。「コーヒーのある風景」をつくり「アートの日常化」を目指す彼らとともに、カフェ、ギャラリー、ショップでありながら、季刊誌の編集室、ラーニングプログラム研究、地域交流、そしてアート事業拠点としても機能し始めています。会場では、子どもから大人までが楽しめる「MINA新聞」を配布し、OUTDOOR LOUNGEでは、拡張するミュージアム「MINA ANNEX」が皆さまをお出迎えします。



THREE

日本の原料にこだわり、自社運営の農園で育てた植物から上質な精油を抽出。独自の「精油科学」研究に基づき、心・からだ・肌の根源的なバランスを整えることを目指したホリスティックケアを展開するTHREE。植物とヒトが持つ知性と感性を掛け合わせ、新しい価値を創造し、お届けします。

TOKYO ART BOOK FAIRでは、深呼吸を誘うような独自のブレンド精油の芳香をインスピレーションに、アートブックを用いた香りのインスタレーションを開催いたします。



Illustration: Tomoe Miyazaki

PLAYGROUND

今年の「ゲストカントリー」関連プログラムのひとつとして、カナダの絵本の展示や、アートブックとしても魅力的な絵本に出会える販売機「ART BOOK VENDING MACHINE」などを設置し、子どもから大人まで楽しめるスペースとなります。さらに、アーティストやTOKYO ART BOOK FAIR出展者によるワークショップや絵本好きの大人たちに向けたトークイベントなども開催します。また、託児サービス（要予約※）もご利用いただけます。

※詳細は後日東京都現代美術館公式HPの「お知らせ」にて公開予定です。

協力：株式会社子どもの文化普及協会、Woset

EVENTS

会期中、3つの会場（EVENT SPACE、SUNKEN LOUNGE、PLAYGROUND）で約60の多彩なイベントが開催されます。ひとつの国や地域に焦点を当て出版文化を紹介する「ゲストカントリー」にて特集するカナダに関連するものから、出展者が企画するトークなど幅広いラインナップでお届けします。

イベント情報の詳細は公式サイトをご覧ください。
https://tokyoartbookfair.com/events/

PROGRAM

Talent Award

新たな才能の発掘と支援を目的に掲げ、全出展者を対象とするアワード「TABF Talent Award」。各週それぞれ3組の選者が「最も推したい出展者」を1組選出し、受賞者は各週末の最終日13時に発表されます。6組の受賞者には、アーティスト長谷川有里による特製トロフィーが授与されるほか、選者より副賞が贈られます。

協賛：株式会社シグマ

Week 1 選者

AA Bronson
副賞：Art Metropoleへの作品収蔵 ※1

1946年、カナダ・バンクーバー生まれ。ベルリンを拠点に活動するアーティスト。1969年、Felix Partz、Jorge Zontalとともにアーティスト・コレクティブGeneral Ideaを結成。1972年に『FILE Megazine』を創刊し、1974年にはArt Metropoleを共同設立するなど、芸術表現や出版、流通の新たな可能性を切り拓いてきた。1994年に二人のメンバーを亡くした後は、個人での制作活動を展開しながら、さまざまな共同プロジェクトにも取り組む。2004年から2010年までニューヨークのPrinted Matterでディレクターを務め、NY Art Book Fairを創設。2013年にはLA Art Book Fairも立ち上げた。

Fumio Tachibana | 立花文穂
副賞：次回TOKYO ART BOOK FAIRでのブース提供 ※2

1968年広島市生まれ。アーティストとして文字、紙、印刷、本を素材・テーマに作品を制作し、国内外で発表している。主な個展「デザイン　立花文穂」（ギンザ・グラフィック・ギャラリー、2011年）、「印象」（水戸芸術館現代美術ギャラリー、2022年）など。2006年より刊行物「球体」をはじめ、不定期かつ不定形な活動として12号まで続いている。作品集「かたちのみかた」「leaves」（ともに誠文堂新光社）がある。ほか、立花文穂プロ.として自家製の本を、多数出版。

Patrick Frey
副賞：Sigma BF ※3

1949年、スイス・ベルン生まれ。俳優、コメディアン、作家、出版人。経済学と美術史の勉強を中断した後、1978年から現在に至るまで、『Tages-Anzeiger』『Parkett』『Wolkenkratzer』『Artforum』などの媒体で、世界各国の現代美術に関する批評やエッセイを執筆している。1986年には、国際的に活動する出版社Edition Patrick Freyを設立。これまでに、現代美術、写真、メディアの分野を中心に、約400冊のアーティストブックや図版を豊富に収録した書籍を刊行している。

Week 2 選者

Art Metropole
副賞：Art Metropoleへの作品収蔵

Art Metropoleは、アーティストブックやマルチプル作品、関連メディアの出版、紹介、展示、アーカイブ、流通を行う、アーティストが主体となって運営する非営利のアートセンターです。書籍や、広く流通させることのできる作品を制作するアーティストに焦点を当て、展覧会やトーク、朗読会など、さまざまなプログラムを企画しています。トロントにあるショップでは、アーティストブックをはじめ、現代美術に関する多様な形式の出版物を取り扱い、その数は16,000点以上にのぼります。1974年にアーティスト・コレクティブGeneral Ideaによって設立されたArt Metropoleは、世界で最も長い歴史を持つ、アーティストが運営する書店です。

Erika Kobayashi｜小林エリカ
副賞：次回TOKYO ART BOOK FAIRでのブース提供 ※2

作家、アーティスト。目に見えないもの、時間や歴史、家族や記憶、声や痕跡を手がかりに、入念なリサーチに基づく史実とフィクションを織り交ぜた作品を制作する。小説『女の子たち風船爆弾をつくる』（文藝春秋）で第78回毎日出版文化賞（文学・芸術部門）受賞。コミック『光の子ども』1〜3（リトルモア）、訳書にインドのタラブックスのサンギータ・ジョギ『わたしは　なれる』、テジュベハン『ゆめ』（green seed books）など。最新刊は『おこさま人生相談室』（柏書房）。arbaro books主宰。国内外でテキストと呼応するようなインスタレーションも手掛け、「ニュー・ユートピア──わたしたちがつくる新しい生態系」（2025年、弘前れんが倉庫美術館、青森）他、第13回ベルリン・ビエンナーレ「the passing the fugitive on」にも参加している。近年は、寺尾紗穂とともにつくる音楽朗読劇の脚本も手がけ、作品に「女の子たち紡ぐと織る」「女の子たち風船爆弾をつくる」がある。

Hans Gremmen
副賞：Sigma BF ※3

ハンス・グレメンは、アムステルダムを拠点に活動するグラフィックデザイナー。写真、建築、美術の分野を中心に、これまでに300冊以上の書籍のデザインを手がけ、その実験的なデザインで数々の賞を受賞している。なかでも、国際的なブックデザインコンペティション「世界で最も美しい本」では金賞を受賞。これまでに、アムステルダム市立美術館、MoMA、ボイマンス・ヴァン・ベーニンゲン美術館、オランダ写真美術館、ポンピドゥー・センターなどで作品を発表している。2008年には、写真に関連するプロジェクトや書籍を中心に刊行する出版社「Fw:Books」を設立。また、Roma Publications、樋口歩とともに、本の可能性やその境界を探るプロジェクトスペース、ENTER ENTERをアムステルダム中心部に設立した。

※1　取り扱い条件には制限があります。
※2　渡航費や滞在費など、出展にかかる費用は受賞者の負担となります。
※3　副賞提供：株式会社シグマ

Unlimited Mate

2023年より、TOKYO ART BOOK FAIRと韓国・ソウルのアートブックフェア「Unlimited Edition – Seoul Art Book Fair」は、両フェアの出展者交流プログラム「Unlimited Mate」を実施しています。本プログラムは、日本と韓国の新進作家の支援と交流を目的とし、双方のフェアから選ばれた出展者が互いのフェアに参加する機会を提供するものです。
協賛：BEAMS CULTUART

TOKYO ART BOOK FAIR ⇨ Unlimited Edition
Buchgestalt

Yasuyoshi Tokida

Unlimited Edition ⇨ TOKYO ART BOOK FAIR
Drei Stack
Human Protector Academy
Team IMIN

LOUNGE

SUNKEN LOUNGE

B2FのZINE'S MATEエリアとPLAYGROUNDのあいだに位置する屋外スペース「サンクンラウンジ」は、TOKYO ART BOOK FAIRで見つけたアートブックやZINEについて語り合ったり、一休みしたりできる憩いの場です。デンマークのアウトドアブランドNordiskのテントが並び、その中でトークイベントやワークショップ、ラジオプログラムなど、さまざまなプログラムが展開されます。

協力：株式会社ノルディスクジャパン、NORDISK CAMP SUPPLY STORE、オーディオテクニカ、BEAMS CULTUART



Photo: fujico

OUTDOOR LOUNGE

L PACK.キュレーションの飲食スペース。TOKYO ART BOOK FAIRを外からも盛り上げるべく、「OUTDOOR LOUNGE」では美味しいフードやドリンクを振る舞うキッチンカーが並びます。コーヒー、ワイン、ビール、カレー、サンドイッチ、弁当、お菓子にアイス。お腹ペコペコの方も、小腹が空いた方も満足していただける充実したメニューです。買ったばかりのアートブックを読んだり、久

しぶりに会う友人と語りあったりと、自由に休憩できる気持ちの良いスペースでは物販も行われます。
また、L PACK.が運営・キュレーションを手がけるMuseum of Imaginary Narrative Artsとのコラボレーション企画も見どころです。蚤の市のような賑わいを、どうぞごゆっくりお楽しみください。

L PACK. | エルパック
小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指します。

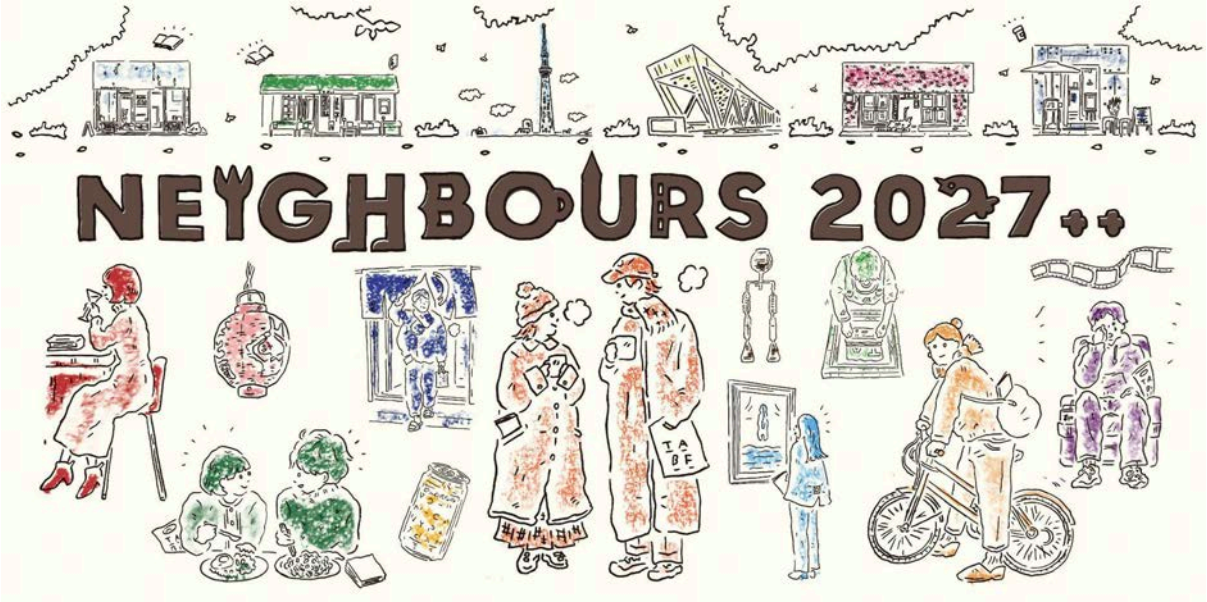


Illustration: Yoko Nakayama

NEIGHBOURS

TOKYO ART BOOK FAIRの会場周辺にある、おすすめのギャラリー、ブックストア、レストラン、カフェ、ショップなどをご紹介します。公式Web記載の「NEIGHBOURS（ネイバーズ）」ページをチェックしながら、ぜひフェアと合わせて街歩きもお楽しみください。
https://tokyoartbookfair.com/2026/neighbours/

プレス画像は、以下よりダウンロードください。
https://x.gd/XBago

URL: https://tokyoartbookfair.com/
Instagram: @tokyoartbookfair
X: @tabf_info
Facebook: @tokyoartbookfair

プレス担当：鳥海 press＠tokyoartbookfair.com